

庄子 信弘(宮城/84期)

まくり、差しに一段と磨きがかかり、今年の連対率は58%。3月久留米で2①①着と今年初Vを飾ると、ウィナーズカップは二次予選2着で準決まで駒を進めた。長走路の成績もいいので連日注目したい。



雨谷 一樹(栃木/96期)

今年行われたトラックワールドカップ第4戦のチームスプリントで金メダルを獲得するなど、スピードは世界トップクラス。本業である競輪の成績はまだ今ひとつだが、地元記念だけに割増の評価が必要だ。



鷺田 幸司(福井/92期)

位置取り、差し脚ともにしっかりしていて成績は安定している。記念開催では1月平、2月奈良ともに二次予選B2着で準決に乗っている。長走路なので先行目標が不在の時でも突っ込みには注意したい。



S級ブロックセブン

5/24 (最終日) 6R

ブロックセブンとは

「推理しやすい、わかりやすい、的中しやすい」をコンセプトにした、競輪独特の「地区」の色合いをより濃く打ち出したS級7車立ての新たな単発レース。

坂本にとって当所は逃げ切りでS級初Vを飾ったゲンのいい走路だ。1月当所戦を含めコンスタントに1着が取れている近況だし、好機に発進なら一発も。
片岡迪之も4月佐世保で予選を勝つなど動き軽快で、組み立て次第では柳詰正宏との西ラインで浮上もありそう。栗山俊介のまくりも混戦だけに侮れない。

田中晴基の総合力がここでは上位。1月平での準VからF1戦でも優参ままならない現状ながら、シューズを換えて調子はいい。と、3月松戸、4月京王閣とそれぞれまくりで1勝を挙げている。1年前には地元ダービーで決勝に乗っていた実力者。東同士で坂本周輝もいるが、自分でやる競走が基本か。自力自在な持ち味を出して1着を取り、巻き返すきっかけとしたい。

田中晴基の
底力を信頼



田中 晴基